



南太秦だより

平成29年度 前期学校評価結果

平成29年度前期学校評価結果 臨時号



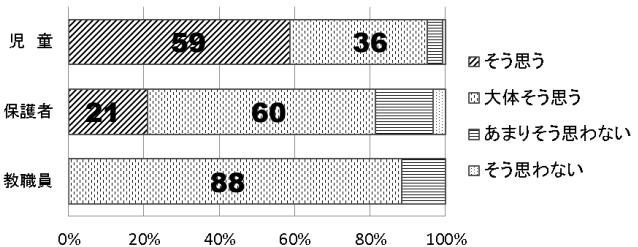
京都市立南太秦小学校
校長 二宮 靖男

「南太秦小学校の教育に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。結果がまとめましたのでご報告いたします。今回、アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』『保護者・地域連携』の4つにまとめて考察しています。

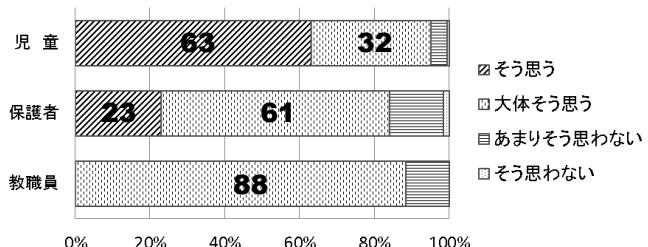
確かな学力

学ぶ意欲があり、進んで学習する子

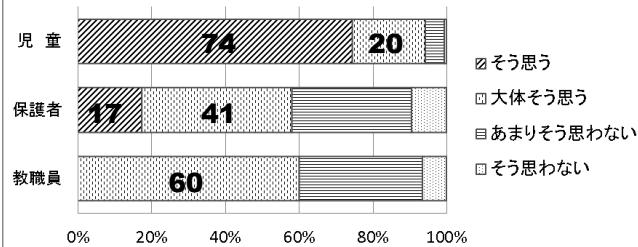
基礎学力が身に付いている（漢字の読み書き・計算ができる）



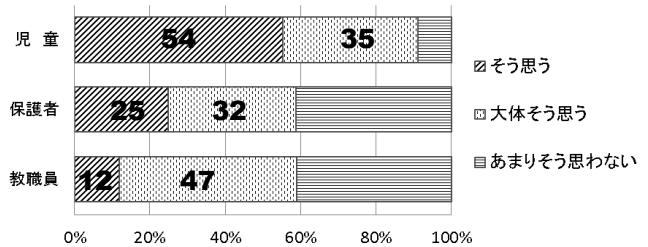
学校の勉強はよくわかっている



家で宿題・学習はしっかりやっている



読書の習慣がついている



【考 察】

全体的に児童の「できている」「やっている」という意識は高い傾向がありますが、保護者・教職員ともに概ねできているが、まだもう少しできるのではないかと感じているところがあります。

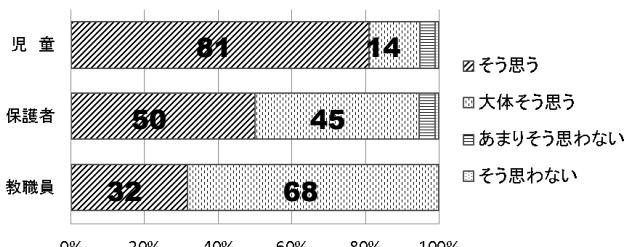
基礎学力・普段の授業については、95%以上の児童が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答していますが、保護者・教職員の視点から見ると、改善の余地があると評価しています。また、特に家庭学習と読書習慣については、児童と保護者・教職員とに大きな意識の差があります。

教員から与えられた課題をこなしていく受け身の学びではなく、自ら課題に気づき、解決していく主体的な学びが大切です。学校では、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを重視していますが、今後は、家庭でも主体的に学ぶ意欲や態度が身に付くよう家庭学習・読書の大切さや内容、方法についても指導していきます。基礎基本の定着には、宿題などの課題をしっかりとやりきることも大切です。児童アンケートの結果から学年が上がるにつれて家庭学習への意識が下がる傾向も見られます。今後も引き続き各ご家庭でのサポートよろしくお願いします。

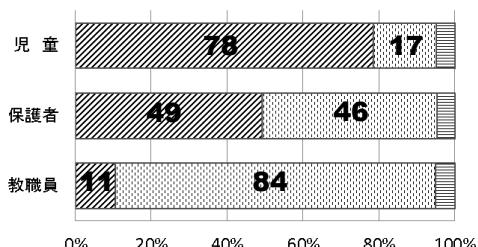
豊かな心

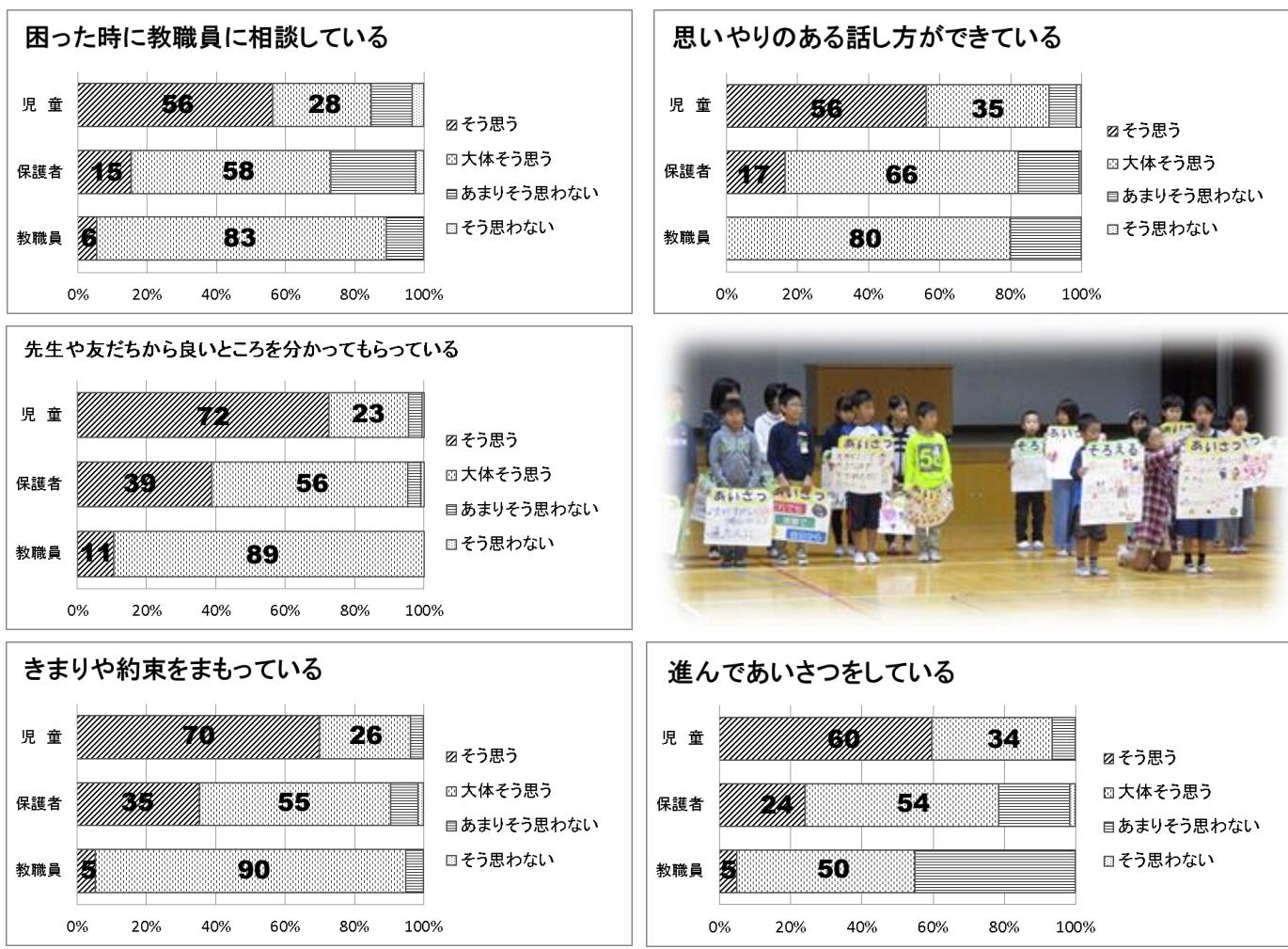
他者を思いやる心をもち、人やものを大切にする子

学校は楽しい



仲間外れにせず、仲良く遊んでいる





【考 察】

3者ともに『学校は楽しい』『仲間外れにせず、仲良く遊んでいる』の項目について95%以上が肯定的な評価となっています。しかし、たとえ少人数でも学校が楽しくない、仲良く遊べていないと感じている児童がいることは看過できません。また、『困った時に教職員に相談している』の項目において、3者ともに「そう思う」の評価が低いことも学校として課題であると捉えています。「一人一人の子どもを徹底的大切する」という本市の教育理念を教職員が改めて意識し、本アンケートや年2回実施する“いじめに関するアンケート”後に聞き取りを行うなどして、児童の実態の把握に努めています。

自己有用感や自己肯定感は、他者との関わりの中で育っています。今回の児童アンケートの結果（「先生や友だちから良いところを分かってもらっている」「思いやりのある話し方ができている」）からは、高い評価が得られています。今後も学級内での取組をはじめ、たてわり活動を充実させていき、子ども同士が認め合い、励まし合える機会を大切にしていきたいと思います。

一方で「思いやりのある話し方ができている」で保護者・教職員の「そう思う」の割合が少ないことも気になるところです。今の子どもたちはテレビだけではなく、インターネットなど様々なメディアから情報を得ることができます。それらの中で使われている言葉が子どもたちにとって正しいものなのかを判断し、取捨選択するのは私たち大人の役割です。子どものメディアリテラシー（情報を正しく使いこなす能力）教育と合わせて一度各家庭でも話し合ってみてください。

『進んであいさつをしている』については、児童と教職員間で大きな認識の差が見られます。“おはよう なかよし やりぬく子”これまで南太秦小学校で大切してきた児童像を目指して、児童会では“あいさつ・そろえる”に力を入れています。各学級で話し合ったことをもとに目標を立て取り組んでいるところですが、まだ「自分から」「元気よく」といった面では課題があります。今後も引き続き取組を進め、進んで元気よく挨拶のできる南太秦の子どもたちを育てていきたいと思います。

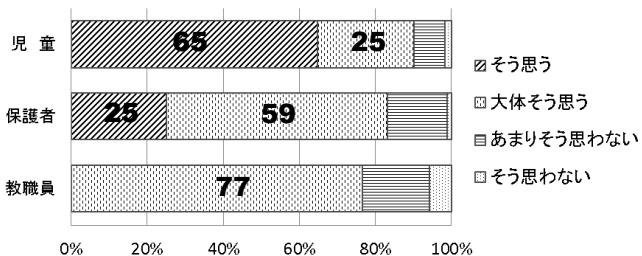
平成29年度 学校教育目標

『進んで学び合い ここ豊かにたくましく生きる子の育成』

～主体性・社会性の育成～

「おはよう」「なかよし」「やりぬく子」

規則正しい生活を送っている



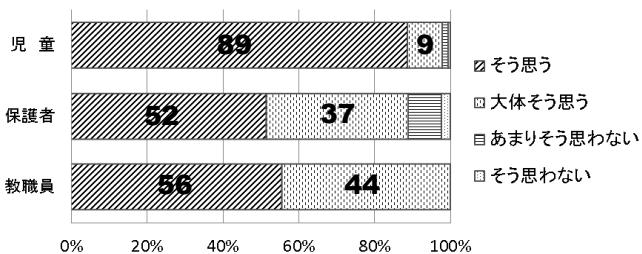
【考 察】

65%の児童が規則正しい生活が出来ていると回答していますが、保護者は、25%に留まっています。学校としても休日明けに遅刻・欠席、体調不良を訴える児童が多くなっていることが気になっているところです。『生活リズムしらべ』の際に、保護者の皆さんと連携して“早寝・早起き・朝ごはん”的大切さを学校でも繰り返し指導していきますので、ご協力よろしくお願ひします。

保護者・地域連携

開かれた学校づくり

地域やPTAの行事を楽しみしている



【考 察】

全国学力・学習状況調査において、本市の「地域行事に参加している子どもの割合」が全国平均よりも低い状況にある中、本校では地域やPTAの行事を楽しみにしている子どもたちがたくさんいることが分かります。京都には“地域の子どもは地域で育てる”“子どもは地域の宝”として大切にしてきた伝統があります。学校も子どもを育てる当事者として、「開かれた学校づくり」を徹底し、家庭・地域と連携していくべきと考えています。

自由記述より（一部抜粋）

- ◆ 親が学校の事、担任の先生の事を信用信頼しているので、子どもは安心して学校へ通い、楽しんでまた先生の事も信頼していると思います。全家庭がそうなる事を願います。
- ◆ 子どもたちの様子をきちんと見てくれていると思いますが、一人一人の個性をきちんと見てほしい。
- ◆ 先生と子どもの信頼関係がしっかりできていると感じます。子どもものびのびと過ごせています。家族も安心しています。

学校では、双方向の信頼関係がとても大切であると考えていますが、そのようなご意見をいただき、大変うれしく感じています。教職員一同、子どもを教え育む者、教育に携わる者としての使命を自覚し、今後も常に自らの言動を律しつつ、より良い教育活動をめざしていきたいと思います。また、学校としての組織力を高め、一人一人の課題に対する支援ができるようにしていきますので、よろしくお願ひします。

- ◆ 3年生になってから特に学習で興味のないものに対して、嫌がるようになりました。成長のうちには反抗心も必要だとは思いますが、やる気を持続させる難しさを感じます。

学年が上がるにつれて学習内容は難しくなることはもちろんですが、学習に対する興味も教科によって分かれています。しかし、どの学習も一つ一つがバラバラではなく横断的につながっています。今は興味がもてなくとも、学習を進めていく中で興味をもつことがあります。興味がないことに対してやる気を持続させることは確かに難しいと思いますが、自主学習ノートなどで家庭学習を積み上げ達成感を味あわせるということも一つではないでしょうか。学習のことなどでお困りの際は、いつでも学校・担任にご相談ください。

- ◆ 以前、計算タイムや南秦漢字検定は大変良い事だと思い続けてほしかったのですが、やらなくなってしまった理由を保護者に説明してください。代わりに何か学力向上に向けて南太秦独自で取り組んでいることはあるのですか？

平成29年3月に幼・小・中学校の新学習指導要領が告示されました。小学校での全面実施は平成32年度からですが、京都市では平成30年度から先行実施します。新学習指導要領では、道徳の教科化などが大きなトピックとして取り上げられていますが、とりわけ、外国語教育の充実などのため中学年以上で大幅に標準授業時数が増加するという大きな変化があります。また、教育課程に基づき、子どもたちが、「何ができるようになるのか」、そのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識しながら、子どもの実態等を踏まえて教育の内容や時間を配分していく「カリキュラム・マネジメント」の確立も求められています。本校でも平成30年度の先行実施と、同年度からの「新しい3学期制」導入に向けて、これまでの行事の実施時期や取組内

容を検証し見直しを行っていることです。以前の取組を評価していただいていることは大変うれしいですが、これらのこと踏まえ、漢字の学習や計算などについては、授業や家庭学習での習熟達成を目指すを中心に行なう。また時間の学習など、各学年で取組を工夫して効果的な学習のあり方を模索しているところです。本校独自の取り組みとしては、高学年のトライアルテストがありますが、これについては継続して行っています。

(参考資料：小学校の標準授業時数（現行・改訂）)

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
現 行	850	910	945	980	980	980
改 訂	850	910	980	1015	1015	1015

※単純計算では、週1時間程度授業時間が増えることになります。（木曜日6校時など）

学校運営協議会理事の皆様より（一部抜粋）

「確かな学力」について

- ◆ 教育指導で自主学習に力を入れて児童のやる気を起こさせる努力をして頂いていますが、その指導方針についても親（保護者）間では思いもまちまちです。やはり基礎学力をしっかりと理解させ、習熟させるために学校・家庭の意見交換が必要ではないでしょうか。
- ◆ 保護者が学校に期待している事が大きいようです。子どもに期待している事も大きいため、保護者と児童のギャップが生まれるのではないかでしょうか。
家庭学習で、保護者の協力を得られる施策が必要だと思います。
- ◆ まなび教室で児童の宿題の取り組み方を見ているとかなり個人差がある様に思います。保護者と児童の評価が著しく違っている事から、家庭生活の様々な理由から親子の団欒のひとときが少なく、コミュニケーションの不足があるのではないかでしょうか。（学校運営協議会の部会のテーマとしてこれまで取り上げています）
- ◆ 児童の学力について、グラフや考察から3者の評価がまちまちであることは歴然としている。学年によって児童の習熟度や理解度は異なると思うが、いかに児童が授業中に集中して学習に取り組んでいるかによって違ってくると思う。
- ◆ 読書等は、自分の子育ての時を振り返ってみても、忙しい日々の中で親が本を手にしてる姿を子どもに見せていたかと言うとなかなか難しかった気がします。
今は、スマホ等を手にしている姿しか見せられていないかもしれません。親子で本に触れる機会を増やせるといいなと思います。

「豊かな心」について

- ◆ 児童が学校は楽しみし、仲間を大切に、思いやりのある心を持ち合わせている事は本当に素晴らしいと考えています。
- ◆ 学校には友だちが沢山いますし、児童それぞれが楽しい学校生活を送れる事が大切です。児童の姿を断片的に見ていると成長の度合いもなかなか分かりませんが、一人一人をしっかりと見ていると1年ごとにびっくりする位の成長していくのが手に取るように分かってきます。そのような姿を見るたびに嬉しくなります。
- ◆ 『良いところを分かってもらっている』で肯定的な回答が高いのは、学校と児童・保護者のコミュニケーションが上手く取れているからだと思います。これからも継続してほしいです。
- ◆ 地域の行事等で会う児童の皆さんには、いつも楽しんでくれているなと思って見ていますが、下校時に時々見かけるとこちらから挨拶をして初めて返してくれる児童が多いように感じます。

「保護者・地域連携」について

- ◆ 児童だけではなく、保護者からも肯定的な意見が多く、地域活動のやりがいを感じ、とても喜ばしい事です。
- ◆ 地域行事に積極的に参加をしてくれている事は、地域の一人として希望が湧いてきますし、何よりも地域の中で交流が盛んにできることは、私たちにとって今後の活動の指針となります。また、若い世代の参加により次世代の担い手として大いに期待ができる事は喜ばしいです。

今後も運営協議会との交流がなお一層深まることを期待しています。

アンケートへのご協力・ご意見ありがとうございました。今後の教育活動に生かさせていただきます。